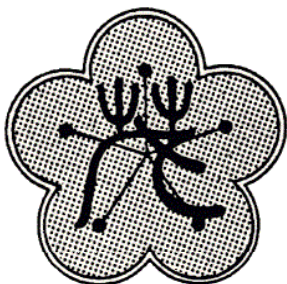


校章



矢不來天満宮の祭神藤原道真公にあやかるよう、梅をバックに豪雪を配したものと
思われる。

制定は戦後のことであると思われるが、沿革では、定かではない。



校章を形どる「星」は、生徒が直面する苦難を克服し、いつまでも輝き続けてほしいという願いと期待が込められた「北斗星」をデザインしたものです。

星の周りに配置されて

いる月桂樹はその葉を輪にして「月桂冠」とし、「最高にたたえる」また、「名誉なこと」を象徴している。昭和25年に制定されたと記されている校章を歴史と伝統のある学校の象徴として、さらなる飛躍を期することが重要であると思います。

校章デザイン 日野 進先生